# 演劇や歌 子どもに夢を

## 劇団の30人「スイミー」熱演　　合唱団40人ら「上を向いて歩こう」

## 板橋で2団体旗揚げ公演





㊨旧高島第七小学校で開催された旗揚げ公演で「上を向いて歩こう」を全員で合唱する出演者　㊧絵本「スイミー」を舞台化し、披露する児童劇団いたばしコミュニティシアター＝いずれも板橋区で

絵本のまち板橋から、子どもの文化芸術に力を入れて世界へ飛び出そう―。そんな目標を掲げる板橋区は、子どもの劇団を立ち上げて絵本「スイミー」を舞台化した。スイミー翻訳者の故・谷川俊太郎さんの詩に多数の曲を作った合唱指揮者が指導する子どもの合唱団もつくった。この二つの旗揚げ公演を5月24日、旧高島第七小学校（旧高七小）の中庭で開き、観客約600人が集まった。

（増井のぞみ）

旗揚げ公演を開いたのは、区内在住・在学の子どもの劇団「いたばしコミュニティシアター」と合唱団「いたばしキッズシンガーズ」。区は文化的な都市間の協力を強化する「ユネスコ創造都市ネットワーク」デザイン分野の加盟申請を目指し、これらを新設した。

この日は、劇団の小中学生約30人がランドセルを背負って特設ステージに上がり、2007年に閉校した旧高七小の登校風景を再現。続いて、海の中のスイミーの世界を演じた。

主役の1匹だけ黒い魚「スイミー」が他の小さな魚と一緒に泳いで大きい魚のふりをして、重々しい音楽で登場した大きい魚を追い払った。赤塚第二中1年の栗原凌さんは「知らない人の前で演じるのは緊張したけど、みんなと一緒に演劇をつくるのが楽しい」と語った。

合唱団は保育園の年長児から高校1年生の約40人。指導者の松下耕さん(63)が東日本大震災の被災者を応援するために作曲した「ほらね」などを披露。松下さんは「子どもたちのエネルギー、未来を感じることは私たち大人にとって本当に重要」と話した。

最後は、区が結成した「『AFIRI（希望）』ダンサーズ」と賛助出演の「はちおうじキッズシンガーズ」も加えた子ども約150人が観客と「上を向いて歩こう」を合唱し締めくくった。

東京新聞　令和8年6月2日刊行